

## 令和5年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

小学校 特別の教科 道徳

## 改善の重点

- ① 道徳教育に関する全体計画、別業及び道徳科年間指導計画の活用・充実を図ること。
- ② 道徳科授業において、教師の意図を明確にしたねらいを設定すること。その際、学習活動に着目し評価の着眼点を設定した上で、児童の学習状況を把握すること。
- ③ 道徳科の特質を踏まえ、効果的に1人1台端末を活用すること。

## 1 設定理由

道徳科の指導において、各教科等で行われる道徳教育を補ったり、それを深めたり、相互の関連を考えて発展させ、統合させたりすることで、学校における道徳教育は一層充実する。例えば、ある体験活動の中で感じたことや考えたことを道徳科の話合いに生かすことで、児童の関心を高め、道徳的実践に向かう意欲と態度を育むことが考えられる。なお、計画の作成に当たっては、右のことに留意する必要がある。

また、道徳科の授業において、教師の意図を明確にし、学習状況を把握する必要がある。内容項目に含まれる道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、「道徳性を養う」ことが道徳科の目標となっている。それを考慮した上で道徳科の学習活動に着目し、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要がある。

さらに児童の発達段階や道徳科の特質を踏まえ、1人1台端末の活用により指導の効果が高まる場面を見極めたり、指導者が意図をもって1人1台端末の活用場面を位置付けたりすることが大切である。例えば、年間や学期という一定の期間を経て端末に記録したことを自己評価する等するために1人1台端末を活用する等すると、児童が自己を深く見つめることにつながると考えられる。

## 年間指導計画作成上の創意工夫と留意点

- ・主題の設定と配列の工夫
- ・計画的、発展的な指導の工夫
- ・重点的指導の工夫
- ・各教科等、体験活動等との関連的な指導の工夫
- ・複数時間の関連を図った指導の取り入れ
- ・特に必要な場合の他学年段階の内容の取り入れ
- ・計画の弾力的な取扱いについての配慮
- ・年間指導計画の評価と改善の計画的な実施

## 2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 主題の配列に当たっては、主題の性格、他の教育活動との関連、地域社会の行事、季節的変化等を十分に考慮し、内容項目の相互の関連性や、学年段階ごとの発展性を考慮して、6学年間を見通した計画的、発展的な指導を行う必要がある。例えば、学校行事、総合的な学習の時間、特別活動等の年間の配列と道徳科の主題の配列の関連を図る等が考えられる。また、各学校の重点的内容項目についても、指導時間を増やす等が考えられる。
- ② 1単位時間の授業については、教師の意図を明確にし、ねらいを設定する必要がある。そのうえで、学習活動に着目し、評価の着眼点(視点)を設定する。教師が意図した学習状況が、児童の学習活動の中に生まれてくるように授業を工夫し、意図した学習状況が見られたかどうかを把握していくことが大切である。
- ③ 指導に当たっては、道徳科の目標に示されている学習活動に着目し、より効果的に行われるようにするための手段として1人1台端末を活用すること。

(2) 参考とすべき資料

- ① 道徳科 評価と授業構想の在り方(令和2年3月) (大分県教育委員会ウェブサイト)
- ② 道徳教育アーカイブ(文部科学省ウェブサイト)